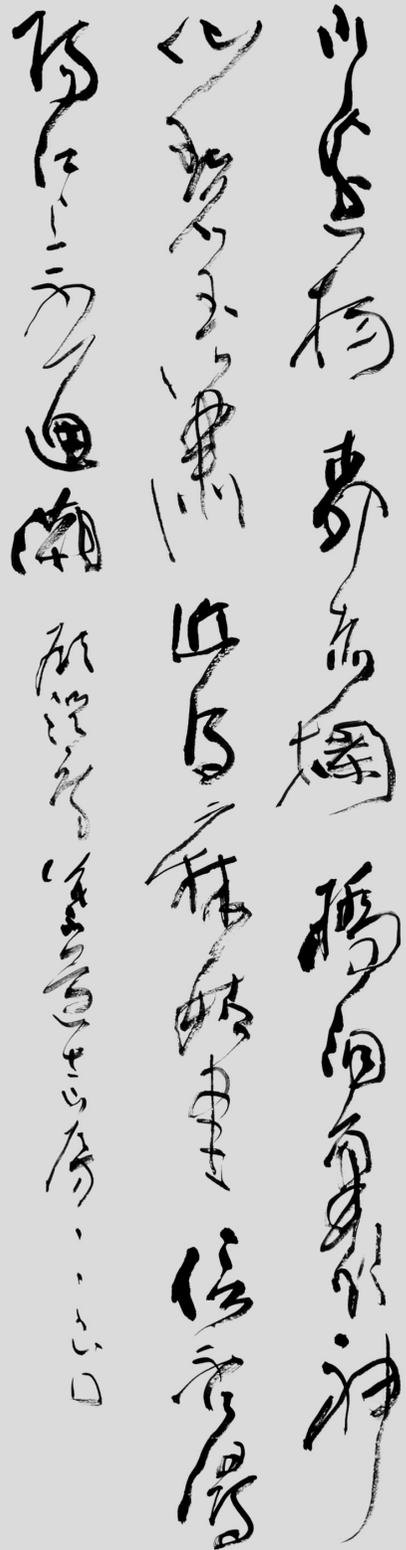


条幅部自由参考

8月25日正午必着

明石春浦先生書



夏夜は まだ宵ながら 明けぬるを 雲のいづこに 月やどるらむ
 夏夜は まだ宵ながら 明けぬるを 雲のいづこに 月やどるらむ

水邊楊柳赤欄橋

洞裏神仙碧玉簫

近得麻姑書信否

潯陽江上不通潮

(顧況)

明石幸子書

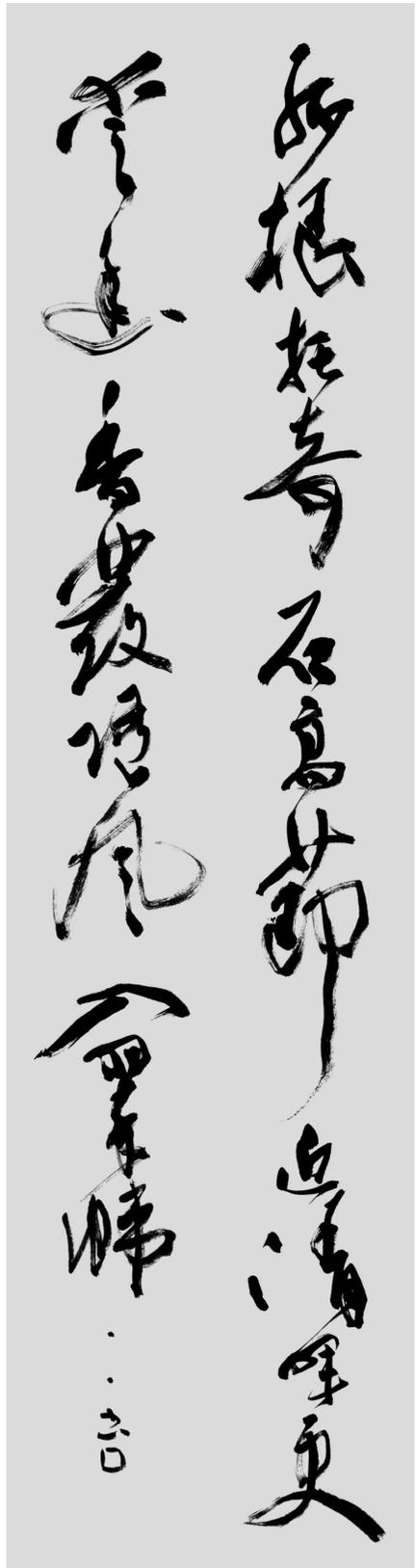


夏夜は まだ宵ながら 明けぬるを 雲のいづこに 月やどるらむ
 夏夜は まだ宵ながら 明けぬるを 雲のいづこに 月やどるらむ

夏の夜は まだ宵ながら 明けぬるを 雲のいづこに 月やどるらむ (清原深養父)

夏の夜は、まだ宵のままと思っっているうちに明けてしまったので、いったい雲のどのあたりに月は宿をとっているのだろうか。

細谷春誠先生書



孤根托奇石 高節近清暉 更愛幽香發 隨風入翠幃 (陳 墀) この詩は竹石の圖に題せしものである。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

畊雲釣月 (瞿法賜)

雲に耕し月に釣りす。

釣月耕雲ともいう。

畊は耕に同じ。悠々自適の境地。

青山緑水元依舊 明月清風共一家 (五灯会元)

青山緑水もと旧に依る 明月清風共に一家

悟ってみれば昔どおり変りない。

龍翔喜胡權訪宿 (喻 鳧)

龍翔にして胡權が訪ねて宿するを喜ぶ 喻 鳧

林棲無異歡 煮茗就花欄

林棲 異歛無し 茗を煮て 花欄に就く

雀啄北窓晚 僧開西閣寒

雀は北窓の晩に啄み 僧は西閣の寒きを開く

衝橋二水急 扣月一鐘殘

橋を衝いて二水急に 月を扣いて一鐘残す

明發還分手 徒悲行路難

明發 還た手を分つ 徒らに悲しむ 行路の難きを

蟬の声にはかに乏しこの朝のあらしになびく 青笹の群 (土田耕平)

半紙部規定課題A

8月25日正午必着

為異
客國
久

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

8月25日正午必着

行書

異國久
為客

異國久
為客

隸書

異國久
為客

異國久
為客

明石春浦先生書

草書

行草書

ここ楚の地の人々が竹枝を歌うのをきけば さすらいのこの身、涙はこぼれて衣をぬらす
異郷にながく旅寓し 寒い夜、しきりに故郷に帰る夢をみる
一通の手紙を送ったが、返事も来ないうちに 数知れぬ木々の葉はすっかり飛び散ってしまった
これより南へ向かい、洞庭湖を過ぎて行けば 故郷のたよりはいつそ稀になるにちがいない

客中

于武陵

楚人歌竹枝

游子淚沾衣

異國久為客

寒宵頻夢歸

一封書未返

千樹葉皆飛

南過洞庭水

更應消息稀

客中

于武陵

楚人 竹枝を歌い

游子 涙衣を沾す

異國 久しく客と為り

寒宵 頻りに帰るを夢む

一封の書 未だ返らざるに

千樹 葉皆な飛ぶ

南のかた洞庭の水を過ぐれば

更に心に消息稀なるべし

(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より

也羣賢畢至少長咸集此地
 有崇山峻嶺茂林脩竹又有清流激湍
 映帶左右引以為流觴曲水
 列坐其次雖無絲竹管弦之盛
 一觴一詠一詠足以暢叙幽情
 是日也天朗氣清惠風和暢仰

(脩禊事)也、群賢畢至、少長咸集、此地有崇山峻嶺、茂林修竹、又有清流激湍、映帶左右、引以為流觴曲水、列坐其次、雖無絲竹管弦之盛、一觴一詠、亦足以暢叙幽情、是日也、天朗氣清、惠風和暢、仰(觀宇宙之大)
 (禊事を修むる)也、群賢畢く至り、少長咸な集まる。此の地、崇山峻嶺、茂林修竹有り、又た清流激湍有りて、左右に映帶す。引いて以て流觴曲水を為し、其の次に列坐す。糸竹管弦の盛無しと雖も、一觴一詠、亦た以て幽情を暢叙するに足る。是の日也、天朗らかに気清み、惠風和暢す。仰いで(宇宙の大を觀)

8月25日正午必着

流觴曲水
臨

(引いて以て) 流觴曲水(を為し)

引いて以て流觴曲水列坐其
次雜無絲竹管弦之盛

東晋 王羲之・蘭亭序

永和九年(三五三)三月三日、王羲之(字は逸少、三〇七~三六五)が会稽山陰の蘭亭に四十二名の当地の名士や一族を招いて禊の礼を修め、曲水の宴を催した。曲水の宴とは思いいかに小川の岸辺に座し、上流から流された盃が自分の前に来るまでに詩を作るといふ遊びであるが、その時の詩集の序文として書かれたのがこの蘭亭序である。二十八行三百二十四字から成るこの序文は、ほろ酔い気分も手伝ってか、非常に見事な出来栄で、後日何百回と浄書してもこれにおよばなかったと言われている。彼自身もこれを寵愛し、子々孫々まで伝えた。

三百年近く経過した唐の太宗の時代に、王羲之の七代の孫、僧・智永のもとにあった蘭亭序は、智永の他界によって、その弟子の弁才に至った。太宗は王羲之の書を酷愛しており、策をめぐらしてやっと蘭亭序を手に入れ、数多くの臨本や複製本を作らせた。原本は太宗崩御の際、遺言により共に埋葬され、この世から姿を消した。

王羲之の書は、行書や草書の草創期にありながら、すでにその典型を示し、千数百年もの間の濁汰をくぐり抜けて今日に至り、書の正統派として伝えられている。彼が「書聖」と称されるゆえんであろう。なかでも蘭亭序は逸品とされ、感性のままに書かれたその書は、線の曲直や太細、運筆の遅速や抑揚の配合が見事で、気脈の貫通と力の均衡の妙を得ている。図版は神龍半印本と呼ばれ、馮承素の手になるものと伝えられている。(春濤)

引いて以て流觴曲水を為し、其の次に列坐す。糸竹管弦の盛無しと雖も、



りょく じゅ
緑 樹

中学一年

雨宮春聲先生書



ほし かげ
星 影

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



さん
山

みやく
脈

小学五年

榎戸春龍先生書



あさ
朝

がお
顔

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月25日正午必着



か わ ら
川 原

小学三年

藤田幸春先生書



せ き どう
赤 道

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

み ち 小学一年・幼年



森戸春濤書

ガ ス 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

た え る か が あ る	歌 は 人 に 勇 気 を あ
---------------------------------	--------------------------------------

小学五年

活 が 反 映 し て い る	民 族 衣 し よ う に は 生
--------------------------------------	---

小学六年

宿 題 が 気 に な り ま す	夏 休 み も 少 な く な り
---	---

中 学

用 波 が 押 し 寄 せ て い ま す	に ぎ わ つ た 海 に は も う 土
---	---

一般(級位)

た し ひ と ま に あ ら わ る め	夜 の 夜 の あ ら わ る め
---	---

一般(段位)

夏の夜のふすかとすれば時鳥はととらすなくひとこゑに明あくるしのめ(紀 貫之)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ぽ	こ
を	い
	ぬ
し	と
ま	
し	さ
た	ん

幼年

が	さ
	る
と	は
く	木
い	の
で	ぼ
す	り

小学一年

か	戸
ら	じ
	ま
出	り
か	を
け	し
る	て

小学二年

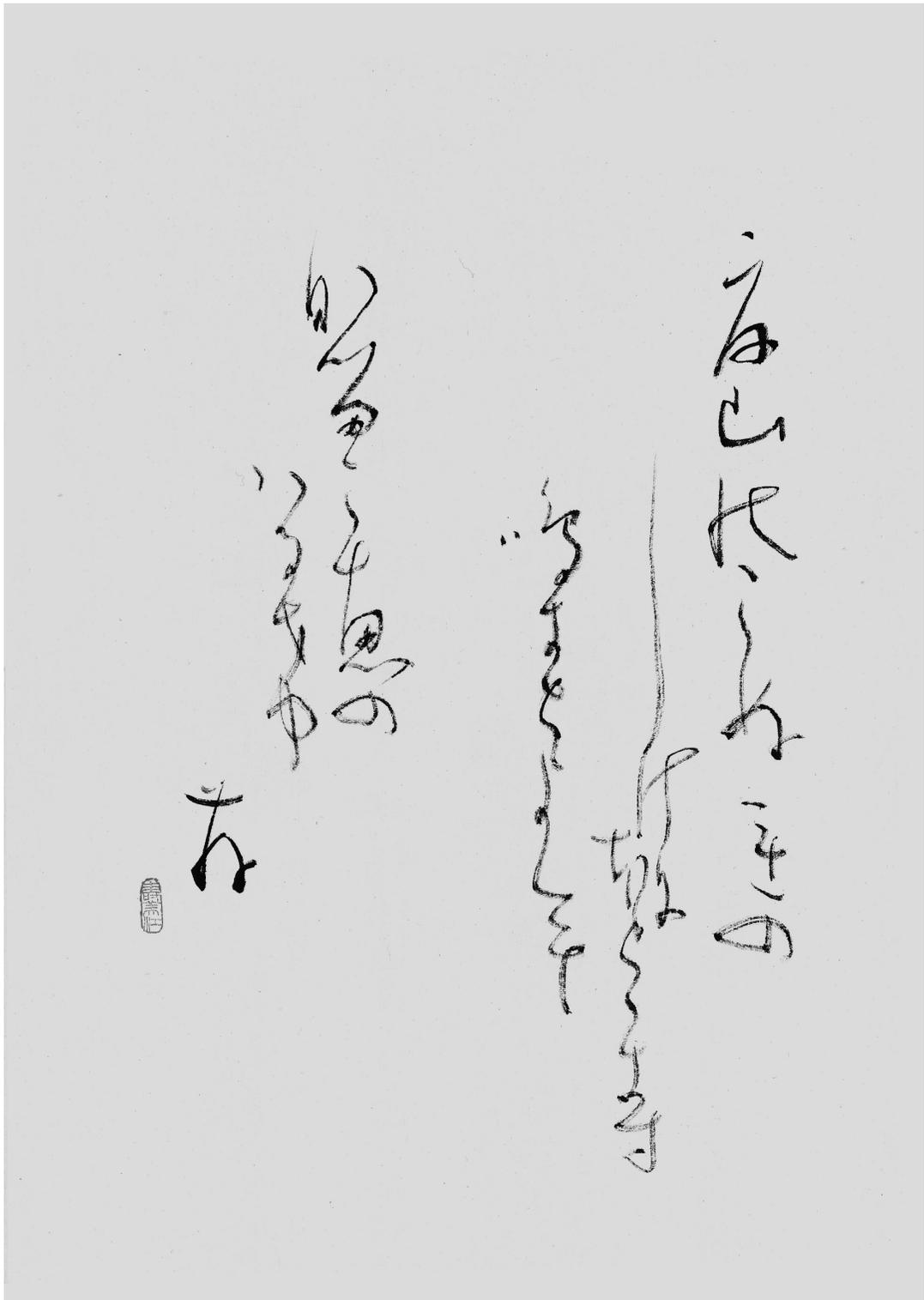
に	す
分	い
け	か
て	を
た	六
べ	等
る	分

小学三年

め	家
ん	の
を	庭
し	で
て	流
食	し
べ	そ
た	う

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

夏山の
能
こぬれのしげに
連
尔
本
ほとゝぎす
支寸
鳴きとよむなる
支
牟那留
こえのはるけさ
惠
八
希散

(万葉集・大伴家持)